

4) 釣り場の施設整備と安全対策

◆住民アンケートによると、魚釣りが最も多い海岸利用の目的となっています。最近は女性の釣りファンも増え、漁港などでは家族で魚釣りを楽しむ光景が増えています。しかし、北海道における水難事故の行為別水難死者数は海での「魚とり・釣り」が最も多い状況であり、安全対策は不可欠なものです。

◆最近では漁港に釣りのためのデッキの設置や魚釣り公園なども作られてきています。



写真 - 28 魚釣り公園 (兵庫県尼崎市)

◆渡島南沿岸住民アンケートによると、「海岸に行く目的」では魚釣りが最も多い目的です。大人だけでなく子供や家族が海岸を安全で気軽に楽しめるような施設の整備を心がける必要があります。

海岸に行く目的について

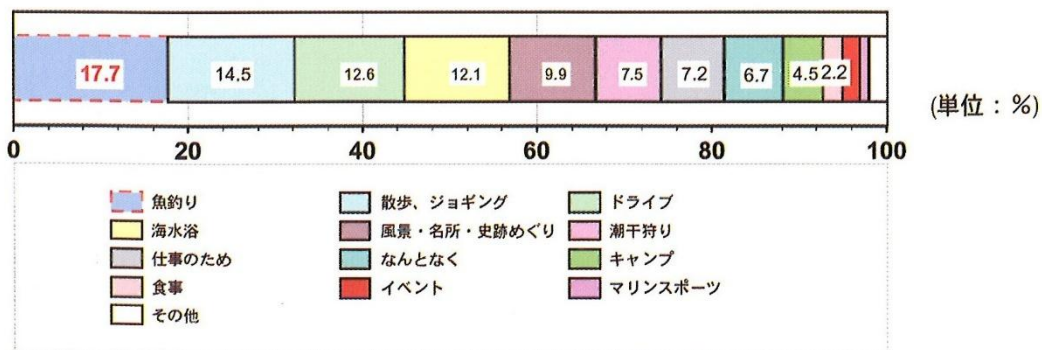


図 - 27 海岸に行く目的

資料 - 渡島南沿岸住民アンケート (2000年12月)

5) 都市部と漁村地域との交流・連携の推進

◆渡島南沿岸には31の漁港があり、平均すると約5kmごとに漁港が分布する道内屈指の漁業地域であります。プレジャーボートの漁港利用も始まり、海岸の適正な利用を推進するにあたり、都市部の人々の住民参加型プロジェクトへの積極的な参加など都市・漁村地域の住民の交流は大切です。

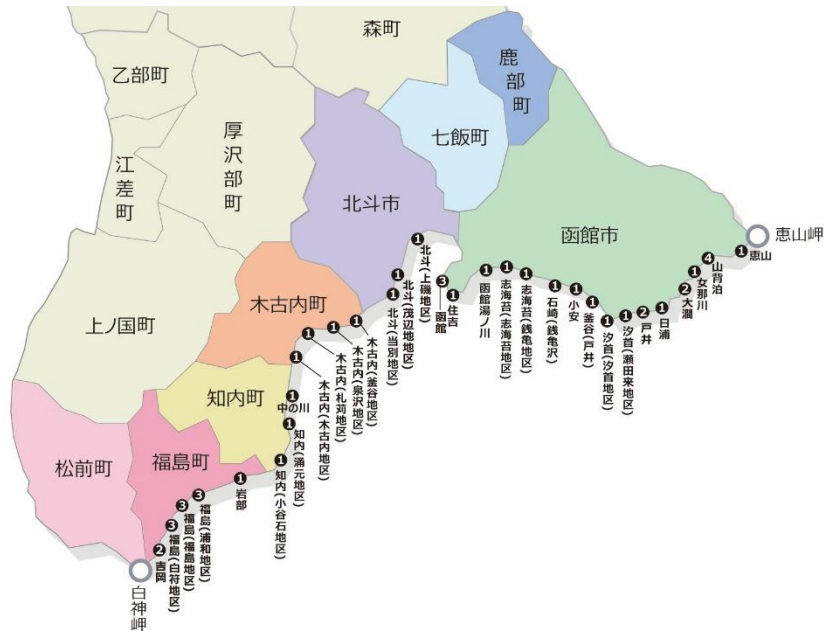


図-28 渡島南沿岸の漁港位置図

◆人々の交流や環境対応のプロジェクトとして「マリンツーリズム」「豊かな海と森づくりネットワーク構想」などがあります。

都市と漁村地域の住民交流や関係機関の連携を深め、漁港・漁村地域を含めた海岸利用を推進し、地域の活性化につなげる必要があります。

◇マリン・ツーリズムを推進する取組みには、様々な手法があります。



◇マリン・ツーリズムの取組みの形態も、様々な段階とケースがあります。

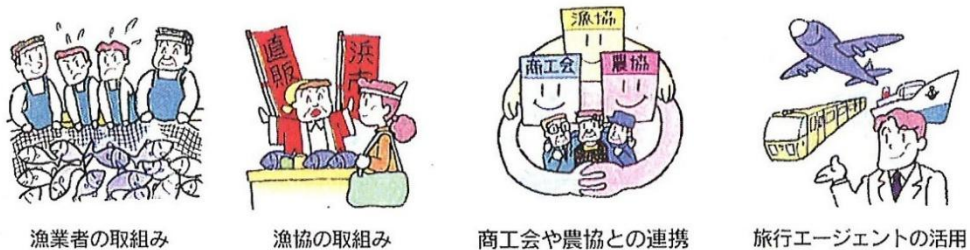


図-29 マリンツーリズムの推進方向

資料- 「21世紀の新しい漁業・漁村づくり」(北海道水産林務部)

6) 自然体験型観光やイベントによる海岸利用の促進

◆沿岸地域では各市町村や団体が地域の活性化や住民のふれあいを目的に様々なイベントを行っています。その中には海の自然や水産資源、海辺や漁港を利用したイベント・祭りなどが多くあります。海浜温泉などの地域の特性を生かした自然体験型観光やイベントにより海とふれあう機会が増えること、また、地域観光資源のネットワーク化や冬期利用についての検討も必要です。



写真 - 29 やるべ福島イカまつり



写真 - 30 北斗市茂辺地さけまつり

◆渡島南沿岸住民アンケートによると、「利便施設の整備について」では、地域活性化に対する意見も多くあります。

今後利便施設を整備していくことについて

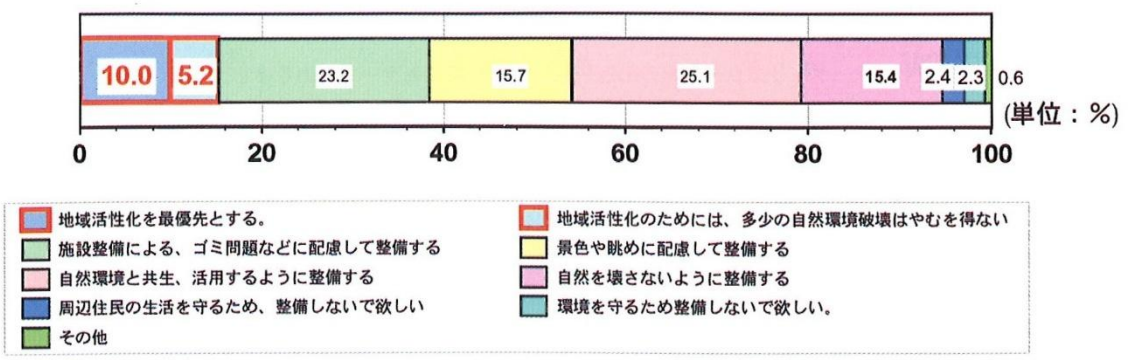


図 - 30 利便施設の整備について

資料 - 渡島南沿岸住民アンケート (2000年12月)

- ◆観光入込客数からは函館市に観光客が集中していることや、季節では春から秋にかけて利用の多いことがわかります。
- ◆人々の海への思いや海岸環境意識の深まり、沿岸地域の活性化につながるように各種イベントなどによる海岸利用の促進が必要です。

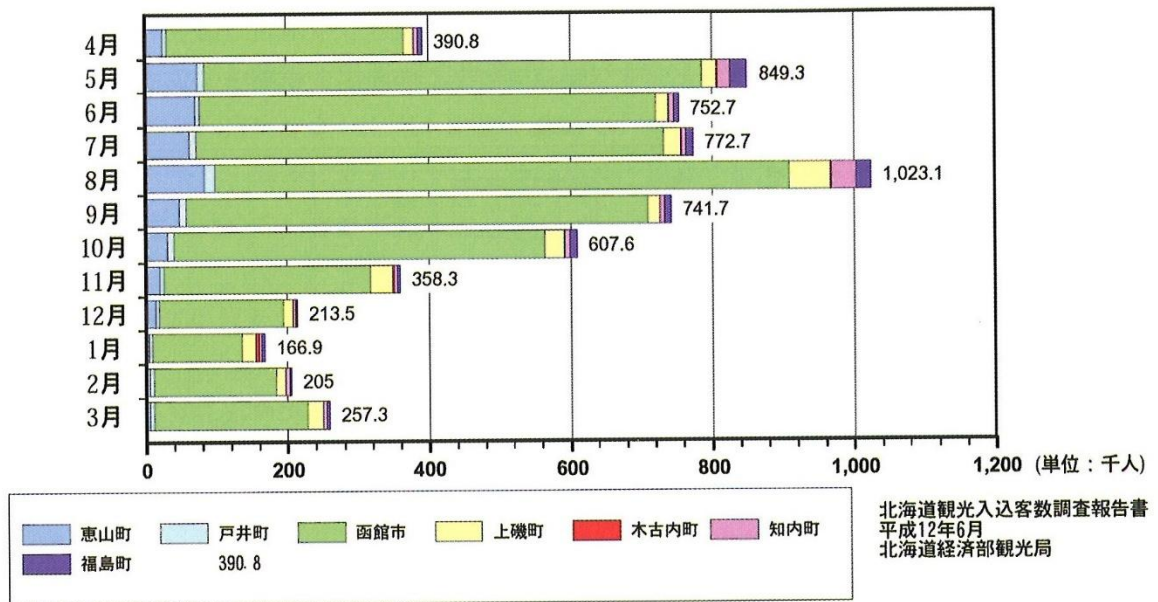


図 - 31 渡島南沿岸市町村別・月別観光入込客数(H11年度)

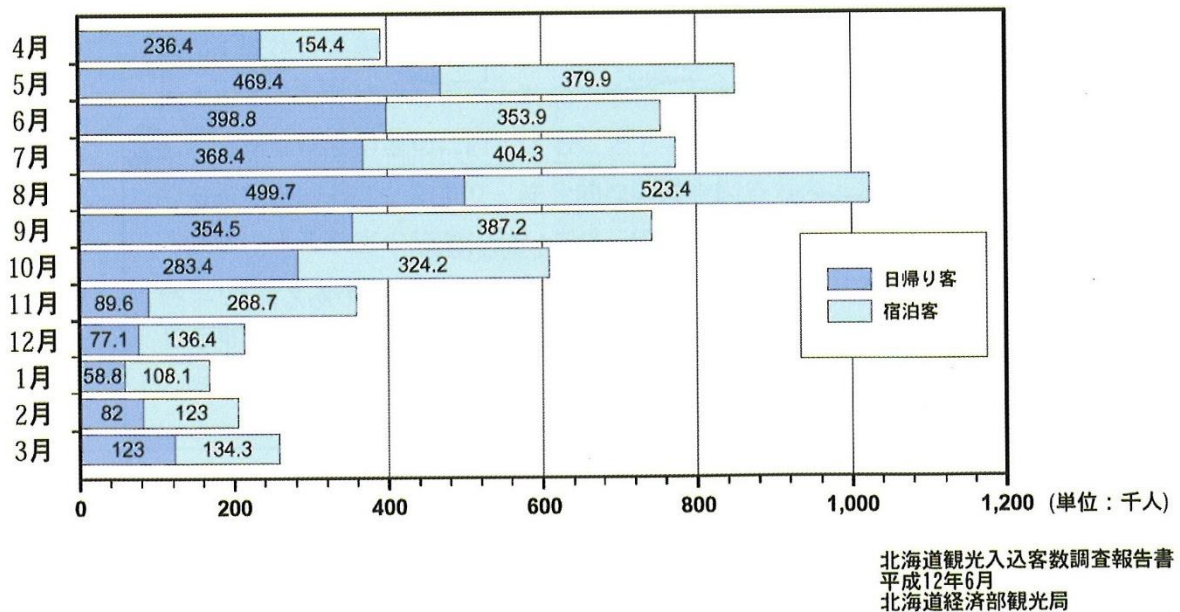


図 - 32 渡島南沿岸月別・旅行形態別観光入込客数